

製品名: MEK2(2C3)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM13803**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	MAP2K2
別名	MAP2K2; MEK2; MKK2; PRKMK2; Dual specificity mitogen-activated protein kinase kinase 2; MAP kinase kinase 2; MAPKK 2; ERK activator kinase 2; MAPK/ERK kinase 2; MEK 2
遺伝子 ID	5605.0
SwissProt ID	P36507
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

背景

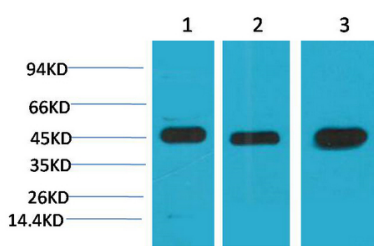
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAP キナーゼキナーゼファミリーに属する二重特異性タンパク質キナーゼです。こ

のキナーゼは、ミトジェン成長因子シグナル伝達において重要な役割を果たすことが知られています。MAPK1/ERK2 および MAPK2/ERK3 をリン酸化して活性化します。このキナーゼ自体の活性化は、MAP キナーゼキナーゼキナーゼによる Ser/Thr リン酸化に依存しています。この遺伝子の変異は、心臓欠陥、知的障害、およびヌーナン症候群に類似した特徴的な顔貌を特徴とする心顔皮膚症候群 (CFC 症候群) を引き起こします。このキナーゼの阻害または分解は、エルシニア菌および炭疽菌の病因にも関与していることが分かっています。この遺伝子には、7 番染色体に位置する偽遺伝子が同定されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。疾患: MAP2K2 の欠陥は、心顔皮膚症候群 (CFC 症候群) [MIM:115150] の原因です。心顔皮膚症候群とも呼ばれます。CFC 症候群は、特徴的な顔貌、心臓欠陥、および精神遅滞を特徴とします。心臓欠陥には、肺動脈狭窄、心房中隔欠損、肥大型心筋症などがあります。罹患した人の中には、まばらで脆い毛、角質増殖性皮膚病変、全身性魚鱗癬様症状などの外胚葉異常を呈する人もいます。典型的な顔貌はヌーナン症候群に類似しています。これらには、両側頭頂狭窄を伴う高い額、眼窩上隆起の形成不全、眼瞼裂の傾斜、鼻梁の陥没、および突出した耳介後角などが含まれる。CFC 症候群の遺伝形式は常染色体優性である。機能: MAP キナーゼに存在する Thr-Glu-Tyr 配列中のトレオニン残基とチロシン残基の同時リン酸化を触媒する。ERK1 および ERK2 MAP キナーゼを活性化する。PTM: MAPKK 自体は、MAP キナーゼキナーゼキナーゼ (RAF または MEKK1) によって触媒される活性において、Ser/Thr リン酸化に依存する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼサブファミリー。類似性:1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット:MORG1 と相互作用する。

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;ErbB_HER;血管平滑筋収縮;VEGF;ギャップ結合;Toll_Like;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;T 細胞受容体;B 細胞抗原;Fc イブシロン RI;長期増強;神経栄養因子;長期抑制;アクチンと細胞骨格の調節;インスリン受容体;GnRH;メラニン生成;プリオン病;がんの経路;腎細胞癌;子宮内膜癌;神経膠腫;前立腺癌;甲状腺癌;黒色腫;膀胱癌;慢性骨髄性白血病;急性骨髄性白血病;非小細胞肺癌;

画像データ



1) HeLa、2) 3T3、3) ラット脳組織に 1:2,000 に希釈した MEK2 マウス mAb をウエスタンブロットで解析した。